

「水際線サイン計画策定検討及びサインデザイン製作・設計業務委託」 業務説明資料

本業務説明資料に記載した内容には、現在検討中のものも含まれるため、本プロポーザルのみの設定条件とし、業務実施の条件となるものではありません。

1 件名

水際線サイン計画策定検討及びサインデザイン製作・設計業務委託

2 履行期間

契約決定の日から令和7年9月1日（月）まで

3 用語の定義

本業務における用語の定義は以下の通りとする。

- (1) 水際線：参考資料1の図1「水際線ルート」図上の青実線で示す、西区みなとみらい1丁目～中区元町1丁目の範囲にわたる全長約5kmの歩行者動線。主な構成要素として、臨港パーク、女神橋、カップヌードルパーク、ハンマーヘッドパーク、赤レンガパーク、象の鼻パーク、山下臨港線プロムナード、山下公園が挙げられる。
- (2) 視点場：参考資料1の図2「視点場サイン設置場所案」図上に数字で示す、水際線沿いにある魅力的な風景を認識・撮影してもらうためのビューポイント。
- (3) たてみち：参考資料1の図3「たてみちポール設置場所（水際線・たてみち結節点）」の図上の赤点線で示す水際線から内陸の市街地を結ぶ、キング軸、クイーン軸、ハンマーヘッド、赤レンガパーク、日本大通り、中華街、元町の7つの歩行者動線。

4 履行場所

本業務の対象となる場所は、代表地点の西区みなとみらい1丁目1-1ほか、水際線周辺とする。

5 業務目的

横浜市では、「令和7年1月27日付 令和7年度予算案について」（参考資料2・抜粋資料）、「令和7年度 都市整備局予算概要」（参考資料3・抜粋資料）にも示されるように、都心臨海部の更なる魅力を高めていくために、世界に誇れる水際線の創出に向けて取組を進めている。令和6年度は、「日常的に安全に楽しく歩ける光環境の整備」や「水際線の滞在環境の充実や回遊性の向上」等、水際線の更なる賑わい創出の検討をするため、「都心臨海部のにぎわい創出に係る水際線整備検討業務委託」を実施し、現状の課題把握や整備の方向性等について整理した。

本業務は、都心臨海部のにぎわい創出に係る水際線整備のなかで、水際線を楽しく移動でき、内陸の市街地への回遊を促すような新たなサイン計画の策定検討及びサイン設置に向けたデザイン製作・設計を目的とする。

6 業務内容

新たなサイン計画の策定及びサイン設置に向けた設計は、現地調査を行い、サイン計画の果たすべき機能・性格・理念・テーマ等を踏まえ、技術的及び意匠的、経済的な見地から設計の指針を明らかにし、グラフィックデザイン及び標準仕様の設計業務を行う。

(1) サイン計画策定の検討

現地調査により、水際線の現況の案内標識や路面標示等の状況を把握し、平面図や写真等で結果を整理する。参考資料1を基に、水際線ルートサイン、視点場サイン、たてみちポールの間隔及び数量、規模を実態に合わせて検証し、業務目的に即したサイン計画策定を検討する。視点場については、参考資料1の図2を参考に、水際線及びその近辺において24箇所程度を委託者と協議のうえ設定する。水際線ルートサイン、視点場サインは設置数及び設置場所を検討し、設置場所一覧表及び配置図、設置イメージ図（水際線ルートサイン3箇所／各1カット、視点場サイン3箇所／各1カット）を作成する。たてみちポールは参考資料1の図3「たてみちポール設置場所（水際線・たてみち結節点）」で示す7箇所の赤丸の位置を基に設置場所を検討し、設置場所一覧表及び配置図、設置イメージ図（7箇所／各1カット）を作成する。

(2) グラフィックデザインの製作及び標準仕様の設計

サイン計画を踏まえ、参考資料1のイメージ1～3を参考に、次のア～ウに示すサインの各グラフィックデザインの製作及び標準仕様を設計する。設計物について、設計意図、グラフィック、安全性、コスト、維持管理、施工の難易度等の面を検証したうえで、標示内容、施工位置、形状寸法、材質、工法等を十分に比較・検討し基本設計図等を作成する。色票はマンセル値等で具体的に示す。

ア 水際線ルートサイン（水際線上に5～20m間隔）

水際線上を歩く人やジョギングする人が、現在地の位置関係や移動距離などを認識してもらうためのサイン。水際線の連続性を示し、移動を楽しむ路面標示。表示内容及びグラフィックデザインを検討し、屋外路面シートによる施工を想定した各箇所の版下を製作する。

イ 視点場サイン（水際線及びその近辺に24箇所程度）

視認性が高く、水際線からのビューポイントを示す路面標示。各視点場サインの表示内容及びグラフィックデザインを検討し、屋外路面シートによる施工を想定した各箇所の版下を製作する。

ウ たてみちポール（水際線・たてみち結節点7箇所に設置）

たてみちの沿道情報が得られ、夜間でも視認できるよう照明を内蔵する高さ4m程度の独立サイン。設置する7基のサインの表示内容及びそれぞれグラフィックデザインを検討し、基礎構造及び筐体内部も含む照明設計までを対象とした基本設計を行う。

(3) 事業計画の作成

ア 概算事業費等の算出

サイン計画・グラフィックデザインの製作及び標準仕様を踏まえ、設置費用等の概算事業費を算出するとともに必要な概略工程を作成する。なお、たてみちポールの設置に伴う撤去費の算出は不要とする。たてみちポールの設置に必要な横浜市所有する電気配線等の図面類は委託者から提供する。それぞれ維持管理計画を作成し、修繕・更新サイクル及び概算費用を算出する。

以上の作成、算出については、委託者と十分協議したうえで実施する。

イ 照査

設計方針、設計計算、設計図、数量計算等の適切性及び整合性等についての照査を行う。

(4) 打合せの実施及び記録

業務の方針及び条件等の着手時の打合せ及び成果納入時の打合せを含め、業務の各段階で計5回程度打合せを実施する。打合せの結果については、受託者において打合せ記録簿を作成し、相互に確認するものとする。

7 業務の実施方法

本業務の遂行に際して、受託者は次の事項に十分配慮すること。

- (1) 受託者は委託者と緊密な連絡を取り円滑な作業進捗を図るとともに、業務目的を十分満足するよう協議、検討を行う。なお、必要事項や業務の進捗状況については、委託者に適宜報告する。
- (2) 受託者は委託者と必要に応じて協議を行うものとし、電子メールベースでの情報共有、業務実施方針について監督員の承諾を受けるものとする。

8 成果品

成果品の納入は次の通りとする。

(1) 成果品と部数

ア 報告書（A4判・冊子） 5部

業務内容について、成果を取りまとめ報告書を作成する。

報告書の体裁については、委託者と受託者で協議を行い決定する。

イ 成果を記憶した電子記憶媒体（DVD-R等） 5部

業務内容について、成果を提出する。成果物のうち、収集した一次媒体以外は、Microsoft Word（.docx）、Microsoft Excel（.xlsx）、Adobe Illustrator（.ai）等の編集可能な形式及びPDFデータで提出する。

水際線ルートサイン、視点場サイン、たてみちポールの版下及び基本設計図は数字による縮尺の標記とし、スケール目盛による標記とする。

版下及び基本設計図の縮尺、フォーマットは委託者と協議のうえ決定する。

(2) 著作物等

成果物の著作権及び所有権は委託者に帰属するものとし、委託者の承諾なしに公表、貸与又は使用できないものとする。

(3) 成果品の納入場所

横浜市中区本町6丁目50番地の10

横浜市都市整備局企画部都市デザイン室

9 その他

- (1) 本委託業務は契約締結後速やかに着手し、所定の履行期限までに全ての業務を完了させること。
- (2) 本委託業務の遂行にあたっては、監督員の指示に基づき、十分協議を行うこと。なお、必要事項については監督員に適宜報告すること。
- (3) 本仕様書に特に定めのない事項については、委託者と受託者で協議のうえ決定する。

サイン計画案（令和6年度「都心臨海部のにぎわい創出に係る水際線整備検討業務委託」抜粋）

◎図1 水際線ルート（全長 5km）



◎イメージ1 水際線ルートサイン



・水際線ルートサインに求められる役割
水際線上を歩く人やジョギングする人が、現在地の位置関係や移動距離などを認識してもらうためのサインです。機能的な設置計画とグラフィックデザインにより、水際線の連続性を可視化させます。



◎図2 視点場サイン設置場所案：24箇所程度



◎イメージ2 視点場サイン



・視点場サインに求められる役割

ビューポイントを示す視点場サインは、視認性が高く、風景を引き立てるミニマルなデザインとします。

◎図3 たてみちポール設置場所（水際線・たてみち結節点）：7箇所／赤丸で示す位置



◎イメージ3 たてみちポール



・たてみちポールに求められる役割

水際線周辺の臨海部では、海や水辺に向かうための案内は十分にある一方、水際線から陸に向かうための案内やデザインは少ないです。海や水辺という目的地だけでなく、水際線からたてみちに誘導し横浜の街を楽しんでもらえるよう、遠くからでも視認ができる存在感があること、近づくと水際線やたてみちを歩くための情報が得られることを目的とします。

水際線からたてみちへ誘導するための、たてみち沿道情報の抽出や昼夜問わず道標として機能する表現方法の工夫に加え、高さ4m程度のシンボリックな構造物としての配置の工夫、それぞれのデザイン性が求められます。

令和7年度予算案について 横浜市

令和7年1月27日

4

にぎわい・経済活性化の取組



4 にぎわい・経済活性化の取組

世界に誇れる水際線の魅力向上 〈計1.6億円〉（令和6年度：0.1億円）

居心地が良く歩きたくなる歩行者空間の創出や、道路・公園等の公共空間を活用したにぎわいづくりなどを一体的に行い、都心臨海部の魅力を高めるまちづくりを進めます。



観光スポットが集まる横浜ウォーターフロントライン
→よりウォカブルでにぎわいあふれる、世界に誇る観光資源へ

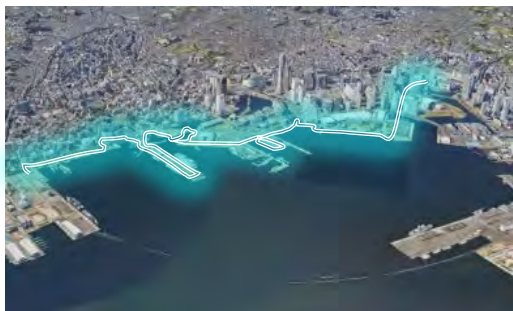
4 にぎわい・経済活性化の取組

世界に誇れる水際線の魅力向上

水際線のにぎわい創出に向けた
ソフト及びハードの取組の始動

新規

〈130百万円〉



水際線について、現在の人の動きや観光消費額等のデータを調査するとともに、更なるにぎわいの創出に向けたコンセプトプランを策定します。

併せて、山下公園における魅力的な夜間照明の整備や、臨港パークにおける居心地の良い滞在空間の検討など、水際線の各エリアの魅力向上に取り組めます。

案内サインの刷新

新規

〈34百万円〉



現在の地図案内サインの地図盤面のデザインを、より見やすく、分かりやすいものとなるようリニューアルします。

更に、街なかから水際線へ、また水際線から街なかへの移動を促し、都心臨海部を今まで以上に楽しみながら回遊できるような、新たなサインシステムの検討を行います。

山下ふ頭再開発の新たな事業計画の
策定に向けた検討

新規

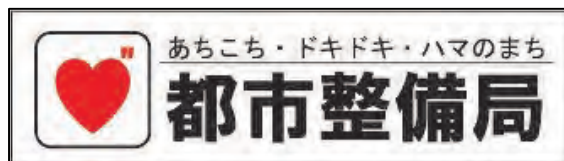
〈64百万円〉



これまでにいただいた市民の皆様のご意見等や、山下ふ頭再開発検討委員会からの「世界に誇れる、魅せる『緑と海辺』空間の創造」など3つの目指すべき姿等を示した答申を踏まえ、新たな事業計画の策定に向けた検討を行います。

令和7年度

予算概要



3 魅力ある都市デザインの創出

(1) 都市デザイン行政の推進

2,084万円（6年度 1,654万円）

まちの主役である“人”を大切に、市民・企業・行政が協働し、その地域が本来持つ“らしさ”と、新しい視点を上手く混ぜ合わせることで、個性と魅力ある、人の心を動かす都市をデザインしていきます。

7年度は、都心臨海部では、魅力的な港や水辺の形成に向け、移動を楽しむ仕掛けとして水際線サイン等の配置計画を検討します。

また、郊外部では、多様なライフスタイルが実現できるまちづくりを目指し、住宅団地の空き店舗や緑地といった地域資源と、アートやサーキュラーエコノミーなどの新しい発想を組み合わせることで、新たな価値を生み出す「アップサイクルのまちづくり」を進めます。



< 都心臨海部の水際線のサイン等の設置検討 >

< 郊外部の「アップサイクルのまちづくり」検討 >
団地の空き住戸を活用した地域交流拠点の事例
(ホシノタニ団地・座間市)

(2) 歴史的景観の保全★

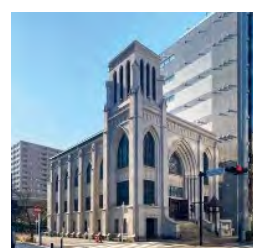
1億2,325万円（6年度 5,419万円）

「歴史を生かしたまちづくり要綱」に基づき、歴史的建造物の登録・認定や外観保全工事や維持管理への費用助成等を行うとともに、歴史的建造物の普及啓発を行います。

7年度は、横浜市歴史的風致維持向上計画（令和7年3月策定予定）に基づき、国費を導入するとともに、耐震改修工事の助成額を拡充することで、歴史的建造物の保全活用をさらに推進していきます。

< 7年度の助成対象（7件） >（6年度2件）

- ・池谷家住宅主屋
(港北区/外観保全・耐震改修・リノベーション)
- ・横浜指路教会（中区/耐震改修）
- ・ホテルニューグランド本館（中区/外観保全）
- ・旧市原重治郎邸（神奈川区/リノベーション）
- ・山手聖公会（中区/外観保全）
- ・山手26番館（中区/外観保全）
- ・ジャパンエクスプレビル（中区/調査）



左上：池谷家住宅主屋
右上：横浜指路教会
左：ホテルニューグランド本館

(参考)

歴史的建造物の登録・認定件数

※令和7年1月27日現在

登録 212件 認定 104件

歴史的景観保全活用事業への寄附実績

6年度実績：5,537万5千700円（件数：1,024件）

※令和6年4月1日～12月31日

5年度実績：2,327万2千500円（件数：522件）

1 都心臨海部の魅力づくりや賑わい創出

(1) 都心臨海部の活性化★

5,508万円（6年度 6,631万円）

国内外の多くの人々を惹きつける都心臨海部全体の魅力づくりや賑わい創出に向けた取組を実施します。

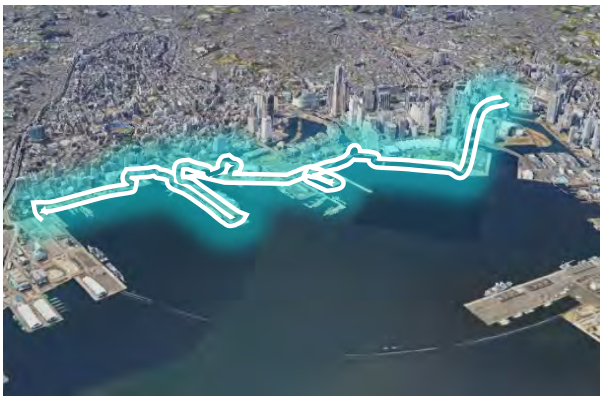
横浜の玄関口である横浜駅の東口を起点に、臨港パークから山下公園までの5キロの水際線の魅力を磨き、居心地の良い空間の創出や楽しみながら移動できる仕掛けづくり等、水際線のにぎわい創出に向けてコンセプトプランを策定します。

公園・道路・河川等を活用して賑わいを創出する取組により、地域や企業等が公共空間を活用しやすい仕組みづくりを進めていきます。

また、山下公園通り周辺地区のまちづくりビジョンを策定し、このエリアに求められる都市機能や誘導方策を検討します。

【7年度の主な取組】

- ・水際線のにぎわい創出に向けたコンセプトプラン策定
- ・公園・道路・河川等の公共空間活用
- ・山下公園通り周辺地区まちづくり検討（まちづくりビジョンの策定等）



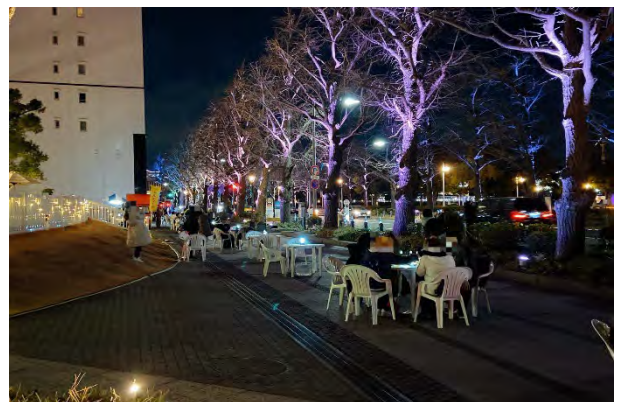
【臨港パークから山下公園に至る約5キロの水際線】



【市庁舎前の河川空間の活用】



【山下公園通りでの歩行者天国】



【夜間における歩行者空間の活用】

<コラム>水際線の魅力向上に向けたまちづくり★

横浜の玄関口である横浜駅からみなとみらい、そして山下公園へとつながる水際線周辺には、音楽アリーナや観光・商業施設、歴史的建造物、海沿いの美しい景観をはじめとする様々な観光資源が集積する等、他都市にはない横浜独自の魅力を有しています。

こうした水際線の魅力を磨きあげるとともに、居心地がよく歩きたくなる歩行者空間の創出や、公園・道路等の公共空間を活用したにぎわいづくりを一体的に行うなど、都心臨海部の魅力を高めるまちづくりを進めていきます。



<水際線のにぎわい創出に向けたコンセプトプランの策定>

- ・水際線のまちづくりの考え方や整備の方向性等をまとめたコンセプトプランを策定



<はまテラスのにぎわい創出に向けた検討>

- ・イベントなどの実証実験を通して、日常的ににぎわう滞留空間の検討



<みなとみらい歩道橋での回遊性向上・誘導策の検討>

- ・みなとみらい歩道橋への案内サインの設置をはじめ、横浜駅東口からみなとみらい地区への回遊性向上・誘導策の検討



<歩いて楽しい水際線のサインの検討>

- ・水際線の連続性を示し、移動を楽しむためのサイン
- ・水際線からのビューポイントを示すサイン
- ・まちなか和水際線をつなぐサイン